

地域輩出の偉人学ぶ

錦織公民館で郷土史講座

「錦織郷土史講座」(錦織地域振興会主催、猪股勇亀会長)が7月20日、錦織公民館で開かれました。

講座は、地域出身の稀有な人物を紹介することを目的に企画。伝記「カナダ移民のパイオニア佐藤惣右衛門物語」を題材にし、著者の佐藤正弥さん(82)=仙台市泉区=、梅津恒夫さん(79)=山形県長井市=、船坂朗子さん(73)=東京都豊島区=を講師に迎えました。講話ではスクリーンに映し出された写真や資料を講師が丁寧に説明。講師の梅津さんは「ふるさとの人たちに自分の人生の道のりを知ってもらって、惣右衛門自身もきっと喜んでくれると思う」と話しました。



会場には、当時の写真や資料を多数掲示。講話と掲示資料により参加者たちは惣右衛門の生涯への理解を深めました。

夏の暑さ吹き飛ばす

まつり通して地域間交流

「ふれあいあじさいまつり」(南方コミュニティ運営協議会主催、永浦勝男会長)が7月2日、大嶽山交流広場で開かれました。

祭りは地域の関係団体や住民の連帯感と世代間交流を深めることを目的に企画。開放的な広場を活用した町内小中学生のステージ発表やゲームなどのふれあいコーナーのほか、商工会による販売コーナーが開設されました。高橋敏郎さん(73)=南方町北大畑=は、「町内の人たちが集まることのできない状況が続いていたが、今日は元気な子どもたちの姿が見られた。久しぶりに会えた人もいてとても良かった」と話しました。



照り付ける日差しの中、元気に神楽や太鼓を披露した子どもたち。会場には大勢の観客が集まりました。

未来担う人材を育成

仙台育英の分校舎が開校

「仙台育英学園高等学校東和蛭雪校舎開校記念式典」(同校主催、加藤雄彦理事長)が7月22日、同校東和蛭雪校舎で開かれました。

開校した東和蛭雪校舎は旧鱒淵小校舎を改修。8月30日から1年生の学びやとして新たな幕開けを迎えます。加藤理事長は「自然も人情も豊かなこの地で、在校生や教職員はもちろんのこと、多くの同窓生や地域の皆さんと仙台育英学園の軌跡をたどっていただけたらうれしい」と期待を込めました。熊谷市長は「未来を担う若者の育成の場として、地域と共に歩んでほしい。今後の発展を願っています」と話しました。



仙台育英の獅子太鼓部による獅子舞が披露され、東和蛭雪校舎の開校を祝いました。

楽しく学ぶ介護予防

チアリーダーが津山訪問

「介護予防健康体操教室In津山」(津山・豊里地域包括支援センター主催)は7月12日、津山老人福祉センターで開かれ、地域住民20人が参加しました。

同教室はベガルタ仙台のころもからでも元気Projectの一環です。教室では、ベガルタチアリーダーズが音楽に合わせて楽しみながら体を動かせる体操を指導。参加者はチアダンスを取り入れた体操で心も体もリフレッシュしました。杉田ことじさん(73)=津山町宮町=は「体操は簡単で分かりやすく、効果があるように感じた。これなら日常生活に取り入れて毎日できる。ぜひまた開いてほしい」と話しました。



参加者たちはベガルタチアリーダーズと一緒に血行を良くし、コリをほぐすストレッチや体操を行いました。

対策施し祭り楽しむ

3年ぶり佐沼夏祭り開催

「登米市佐沼夏祭り」(同実行委員会主催、熊谷敏明会長)が7月31日、迫町佐沼地区で開かれました。

コロナ禍により中止が続いていましたが、3年ぶりの開催となった佐沼夏祭り。例年と比べ大幅に規模を縮小して行われました。アルコール消毒などの感染症対策を施した飲食ブースには、焼き鳥やかき氷など、お祭りの雰囲気盛り上げる屋台が出店。郷土芸能佐沼鹿踊奉納や佐沼音頭による手踊り大行進などが、集まった観客を沸かせました。午後7時から祭りのフィナーレを飾る約2,500発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を鮮やかに彩りました。



この日、市内は気温が35℃を超える猛暑日となったものの、会場を訪れた人たちは久しぶりの祭りを楽しんでいました。

連携してまちづくり

地方創生に向け協定締結

「登米市とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社との地方創生に関する包括的連携協定締結式」は7月19日、迫庁舎で開かれ、市とあいおいニッセイ同和損保(角谷淳志仙台支店長)が連携協定を締結しました。

市と同社は、地方創生の推進に向けて、防災・災害対策や産業の振興、教育、健康などさまざまな分野で協力。持続可能なまちづくり、未来へつなぐまちづくりの実現に取り組んでいきます。熊谷市長は「全国、世界に張り巡らせたネットワークと蓄積してきたノウハウを生かしていただき、連携、協力して地域課題の解決につなげていきたい」と話しました。



角谷支店長は「市と協力して安心で安全に暮らせるまちづくりを目指していきたい」と話しました。